

令和2年12月21日

あま市教育委員会
教育長 松永 裕和 様

正則小学校地区委員会
委員長 山田 泰信

甚目寺東小学校・正則小学校地区委員会（学校間交流）正則小学校の報告書

甚目寺東小学校・正則小学校地区委員会は、正則小学校と甚目寺東小学校、あま市内小中学校との学校間交流等について、あま市教育委員会へ意見を述べるため、令和2年11月に設置されました。この度、委員会会議を経て、次のとおり意見が出ましたので、報告します。

1 検討事項

甚目寺東小学校・正則小学校とあま市内小中学校との学校間交流等について

2. 地区委員会において出た意見

あま市内小中学校が、学校間の交流を持つことは、基本的には良いことであると言えるが、その内容が学校、児童又は地域にとって負担となるのであれば、必ずしも良いものであるとは言えなくなる。実施することを前提とした議論はすべきではなく、学校間交流を実施することを目的としてはならない。

学校間交流の規模及び内容については、学校ごとの特色や交流を行う内容によって異なることから、全地区で全体としての方向性を示した後、実施を検討する各地区での話し合いによるものが適当であると考えられる。

3. 検討事項に対する考え方

学校間交流について大変良い又はどちらかと言えば良いことと考える者が多数であった。ただし、先生と子どもたちに負担がかからないかというご意見、あま市民としての意識付けを行政・地域がまず率先して行うとともに、地域間交流や地域のコミュニティづくりの推進が必要であるというご意見がありました。学校間交流の規模については、市内の小学校、中学校それぞれ又は近隣の2～3校の小学校で交流する規模が良いと考える者が多数であった。ただし、学校間交流の目的の明確化と理解を図ることが必要であり、教育委員会の後押しが大事であり、先生方に無理を強いることは避けるべきであるというご意見がありました。学校間交流の期間については、長期にわたるものから、単発で終わらせるものまで、広く意見が分かれた。学校間交流の対象者については、単一学年によるもの、学校内での異学年交流にとどめて他校と交流する必要はないといった広く意見が分かれた。学校間交流の種類・内容については、さまざまご意見に分かれた。また、リモートによる交流の方法もあるのではないかとご意見がありました。学校間交流の参加者については、広く地域全体に開かれたものから児童・生徒のみとするものまで広く意見が分かれた。

4. 今後の課題

学校間交流については、あま市全体の方向性を示したうえで、希望がある場合には、関係する学校等で学校間交流の規模や方法等の具体的な計画を話し合うことがふさわしいと思われる。その場合、児童・生徒、学校、地域に負担を強いるものであってはならない。

なお、学校間交流だけではなく、地域づくりや生涯学習活動と連携しながら、時間をかけて旧三町の垣根を取り払うような交流活動について推進して行くことが良いのではないかと考えられる。